

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
62

振興協議会だより

【発行日】令和5年8月24日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業へ参加しました

7月7日（金）～9日（日）にかけて、佐渡ジオパークにて認定10周年の記念事業が開催されました。

この事業は、全国のジオパークにも発信され、子ども向けワークショップの実施や新潟圏域ガイド意見交換会も合わせて開催されることから、事務局3名、認定ジオガイド4名の計7名で参加しました。

1日目は、4つのコース（太古の時代・大陸の時代・海の時代・島の時代）に分かれて佐渡ジオパークガイドによるジオツアーが行われました。このツアーは、佐渡の成り立ちがよく分かるすばらしい内容で、佐渡名物のたらい舟体験などもありました。その夜は、祝賀会が開催され、お祝いに糸魚川市長をはじめ、国会議員、日本ジオパークネットワーク（JGN）理事長、佐渡ジオパークに関わる方々、南紀熊野、伊豆半島、糸魚川、鳥海山・飛鳥、下北など各地域のジオパークから参加がありました。

2日目の記念式典では、佐渡ジオパークにおいてこれまでご活躍された方々への感謝状が贈呈され、基調講演、パネルディスカッションなどが行われました。パネラーの1人には、佐渡市出身の漫画家が登壇し、島民目線の発言がありました。その後、サイン会が行われ大盛況でした。この他、会場では子ども向けのワークショップが開催され、苗場山麓ジオパークのブースでは、苗場山麓エリア内で採取された火山灰に含まれる鉱物やガラスを顕微鏡で観察してもらいました。子どもの学習発表では、佐渡市内各小学校のジオパーククラブの児童によるポスターセッションが開催されました。その後、佐渡、糸魚川、苗場山麓の認定ジオガイドなどが集まり、「お客様に合わせた楽しくわかりやすいガイド案内とは」をテーマに、各班ごとで意見を出し合い発表を行いました。

最終日は、佐渡ジオパークの見どころのひとつでもあるドンデン高原にて、新潟大学名誉教授の崎尾均氏による「佐渡の成り立ちとドンデン山の動植物、歴史的な林間放牧について学ぶ」をテーマに研修を受けました。

10周年記念事業ということで非常に大規模なイベントの3日間の中では、各ジオパーク関係者の協力や活躍もあり、島内外から大勢の人たちが会場を訪れ、親子で楽しく参加している様子もたくさん見受けられました。



佐渡ジオパークに到着



土の中のお宝を見つけよう！



ガイド意見交換会の様子



津南町・栄村の小学5年生と集合学習を行いました

例年、小学5年生の集合学習では、環境学習として講義を実施していました。

今年度は、フィールド学習として「川」をテーマに7月6日（木）に実施しました。

場所は中津川の石坂橋の下の川原において、グループごとに分かれて、川原の石について説明を受けた後、観察や石積み競争を行いました。石積み競争は、大きな石を土台にして80cm以上の高さに積み上げたグループもあり驚きました。その後は川の中に入り生き物探しや、川原に落ちているごみを拾うクリーン活動も行いました。生き物探しでは、カジカやカワゲラの幼虫を見つけ水生生物について学びました。また、川原にごみはほとんど落ちておらず、わずかなごみを回収するだけでしたが、環境保全の大切さを学ぶ機会となりました。

終始天候にも恵まれ、体を動かしながら児童たちが交流を深め、自然環境について学んだ1日でした。





令和5年度 苗場山麓ジオパーク振興協議会総会開催

6月28日（水）、津南町役場大会議室において、第15回苗場山麓ジオパーク振興協議会の総会が開催されました。

会長をはじめ振興協議会委員の皆様や行政内部の職員、事務局の関係者が出席しました。はじめに令和4年度の事業実施報告、事業決算報告が行われました。その中で昨年度、苗場山麓ジオパークは、2回目の再認定現地審査を受けて、再認定となったことが改めて確認されました。

その後、令和5年度の事業および予算案が提案され、全会一致で可決されました。会議の中で、資源探査部会、商品開発部会、広報部会、ガイド部会の各部会長から、昨年度の活動報告と今年度の活動予定が話され、さらに今後、部会同士の連携を行う事の重要性について共有を図りました。

そして、これからの4年間におけるアクションプランの検討や、来年度以降に策定予定の基本計画についても報告が行われました。会議終盤では、地域資源の見どころを新たにジオサイトにしてはどうかという提案もあり、意見交換も見られました。

今後の事業を進めていく上で、津南町と栄村の両町村でしっかりと協議を行い、さらなるジオパーク活動を展開していきたいと思います。



ガイド養成講座・歩いて楽しむ中津川左岸トレッキングツアーを実施しました

7月15日（土）歩いて楽しむトレッキングツアー中津川左岸・前倉トド～鳥甲牧場方面を実施しました。

このトレッキングコースについては、5年ほど前から苗場山麓ジオパークの資源探査部会が中津川左岸のトレッキングコースとして整備をはじめ、小赤沢の中津川対岸の矢櫃村跡まで開通となりました。後に、一般向けのガイド養成講座「歩いて楽しむトレッキングツアー」として、5年計画で順次設定したコースを踏破し4年目となりました。

初年度である令和2年度に石坂集落の崖上部のお堂から百合窪～龍辰峰間踏破を皮切りに、令和3年度は中津川第1発電所～あずき坂間、令和4年度は高野山～あずき坂間をこれまで踏破し現在に至ります。

今回のツアー参加人数は、新潟県内では十日町市8人、長岡市3人、柏崎市3人、南魚沼市1人、津南町7人、長野県栄村からは5人の参加があり、事務局含めて総勢28人となり、苗場山麓ジオパーク域外では15名の参加がありました。

コースは、片道約2.0kmの長くも短くもない適度な距離で、ゆっくりとブナ林を歩き、心地よい汗をかきながら森林浴を体感できました。

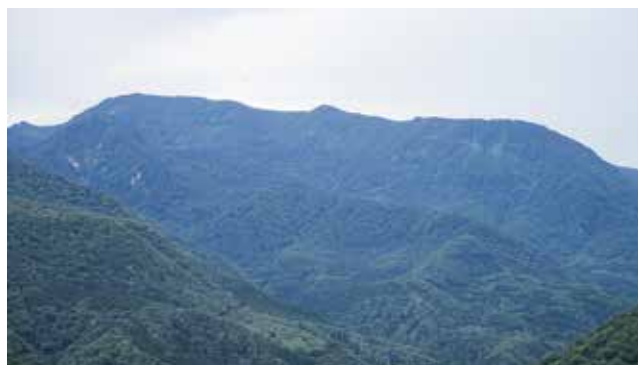
当日は、天候も次第に回復し、前倉トドの展望台（山の展望台）では苗場山や八海山等を眺望することができました。

「来年も（このトレッキングに）来たい。」という参加者の感想もたくさんいただきました。同行した5人の認定ジオガイドからは、バスの往復移動の際に、植物・樹木等の解説や説明、補足などをしてもらい、参加者の皆さんからとてもご満足いただけたようで、拍手喝采が起きました。

来年度の「歩いて楽しむトレッキングツアー」は、鳥甲牧場から矢櫃村跡までのコースを計画しています。コースについて入念に検討し、安心安全かつ楽しいツアーができるように準備を進めていく予定です。願わくば、以前、架かっていた矢櫃村跡から対岸の小赤沢へ通じる「つり橋」が、いつか再建され、効率的なコースとして展開してほしいものです。



山の展望台にて



苗場山

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

三谷 裕子さん



柱状節理の見られる場所（ガイド No.53 三谷 裕子さん）

皆さんは「柱状節理」をご存じですか？

津南町に同じ名前のお菓子が 있습니다。バウムクー
ヘンに似ています。

柱状節理は、溶岩やマグマが岩体冷却の際、体積収
縮によって冷却面に垂直に五、六角形の柱状の割れ目
ができて形成されます。

苗場山麓ジオパークでは、いたるところに柱状節理
が見られます。秋山郷の布岩山や石落しは素晴らしいで
す。ジオパーク内ではないですが、私がすぐ間近に見れ
て素晴らしいと思うのが、清津峡（十日町市）です。

清津峡溪谷トンネルは安全な観光のためだけに作ら
れたトンネルで、日本三大峡谷の一つです。（他の2峡谷は富山県の黒部峡谷、三重県の大杉谷）

以前は、清津川沿いの遊歩道（登山道）からの探勝でしたが落石事故により通行禁止となり、その
後、4年の歳月と総工費約20億円をかけて歩道トンネルが完成し、1996年10月1日に全長750mの
「清津峡溪谷トンネル」としてオープンしました。2018年4月には、中国出身の建築家マ・ヤンソン
氏により大地の芸術祭の作品としてリニューアルしています。

一番奥のパノラマステーションでの写真撮影が大人気で、日本だけでなく海外からも大勢の方が来
られています。アジア諸国や、遠くのヨーロッパ・北欧からもです。先日もデンマークから個人旅行
で来られたカップルが帰りの足が無く困っていたので、石打駅（南魚沼市）まで送って差し上げた
ら大変喜ばれました。日本のイメージアップになったかしら？ガイドは思わぬところでできますね。



マ・ヤンソン / MAD アーキテクト
「Tunnel of Light」
（大地の芸術祭作品）



布岩山

お知らせ

9月 3 日(日) 9:00 ~ 13:00 認定ガイド向け研修（牧之の歩いた道）：堺橋～甘酒村跡～小赤沢方面
9月 20 日(水) - 21 日(木) 中部ブロック大会：会場「雪国」基調講演（20 日）ジオラフティング（21 日）

奮っ
て
ご参
加
くだ
さい



突撃しよう!となりのジオ便り～萩ジオパークからこんにちは～(萩ジオパーク推進協議会事務局長 伊藤 靖子)

萩ジオパークは本州の西端、山口県の北東部に位置する萩市、阿武町の全域と山口市阿東地域の2市1町で構成され、2018年に日本ジオパークに認定されました。「維新とマグマ胎動の地・萩」として、大きなカルデラから小さな単成火山まで、過去1億年にわたる多様なマグマの活動の変遷をたどることができるのが特徴です。

1つ目のマグマの活動は約1億年前～約3000万年前の「大陸のマグマの活動」で、大地の大半を埋め尽くす超巨大な噴火を起こしました。2つ目は約1500万～1000万年前の「日本海のマグマの活動」で、日本海に島や海底火山をつくりました。最後は約200万～1万年前の「萩・阿武のマグマの活動」で、1ヶ所で1回だけ噴火してできる小さな火山をたくさんつくりました。これら3つのマグマの活動が多様な形の大地をつくり、萩特有の風土の土台となりました。

また、萩ジオパークでは400年以上の歴史を持つ萩焼、江戸時代の面影を残す萩城下町など、マグマの活動が生んだ地質や地形を巧みに利用してきた先人の知恵が今も息づき、大地と向き合って文化を発展させた日本人らしい生き方に触れることができます。

例えば、「一楽二萩三唐津」と言われるように茶陶として知られる「萩焼」の原料は、約1億年前に大陸で大規模噴火を起こしたマグマが地下で冷え固まった花崗岩が風化した粘土です。萩三角州上の市街地では江戸時代の絵図でまち歩きができますが、これも江戸時代の初めに萩に移封された萩藩主が土地の特性を見極めて街づくりをしたからと言えます。そして特産品の「夏みかん」は明治以降住む人のいなくなった武家屋敷で栽培され、萩の経済を支えましたが、ここにも地球目線で見たときの理由があります。

ここならではの秘密を読み解き、大地と人のつながりを楽しんでいただくため、萩ジオパークでは「萩ジオアドベンチャー」や「地球目線のまち歩き」と称する体験プログラムを用意しています。見どころ見学と合わせて、体験プログラムにぜひご参加いただき、今の暮らしを見直し、未来に向けてどう行動するかを考えるきっかけとなれば幸せに思います。



一番新しい火山「笠山」を1億年前の花崗岩の砂が堆積した砂浜から望む



須佐ホルンフェルス・ジオアドベンチャー



江戸時代の通船波止場発見 道の駅信越さかえ真下に黒石波止場一

皆さんは千曲川・信濃川を、荷物を積んだ船が上り下りしていた事を知っていましたか？今から3年前の2020年、ジオパーク千曲川ラフティングのさ中、栄村役場の真下あたりから「クサビ穴」のある巨岩が多数見つかり、道の駅の真下には岩壁を掘り込んだ様な地形が現れました。その前年の秋、台風19号で千曲川が大増水し長野市などで大きな被害がでましたが、下流域では増水で川岸に溜まっていた土や草が綺麗に洗い流されて現れたのです。後日、現地調査すると、そこは人工的に造られた大規模な船着き場跡でした。

歴史を紐解くと、江戸幕府は天領米を千曲川船を使って江戸まで運ぶ計画を何度も企てましたが、実現できませんでした。しかし、江戸後期(1830年頃)になると市民生活も豊かになり物流量が増大します。そのような中、善光寺町の厚蓮と言う豪商が、栄村・津南間の急流域に迂回路(運河)を多数作って、船を運行する計画を幕府の許可のもと10年を掛け完成させました。その時の絵図が十日町博物館に展示されています。当時の船は米100俵積みでしたが、この急流域は半分の50俵積みだったそうです。その後、幾多の障害もありましたが継続されていたようです。明治・大正時代になりますと日本の近代化の機運が高まり水力発電の基地として豪雪地(自然雪ダム)の当地が注目されました。

大正10年、上越線はまだ全通してはおらず、高崎からの上越線は渋川まで、新潟からの北線は越後川口までようやく達していたに過ぎませんでした。飯山鉄道(現:JR飯山線)はもちろん開通していません。そのような交通事情の中で考えられる最も合理的な輸送方法、それは「千曲川(信濃川)」による船輸送でした。東京からの建設資材は、信越線で碓氷峠を越え、長野を経由して豊野まで運ばれます。ここから同じ年に飯山まで開業していた飯山鉄道によって飯山に至ります。ここで下ろされた資材は、千曲川(信濃川)の河原まで運ばれて船積みされました。この輸送のために、大小100艘以上の輸送船、360名の船頭が動員されたといえます。その資材を下ろしたのが黒石波止場(森)と芦ヶ崎波止場(段野)でした。

現在、千曲川・信濃川では堤防工事が着々と進み、当時の通船遺構が残っているのは栄村と津南町のみと思われます。近代日本の発展に大きく寄与した当地の水力発電の歴史にもう一度注目し、残っている貴重な産業遺産(遺構)は私たち住民で調査研究し、後世に言い伝えて行かなければならないと思っています。【文責:中澤 謙吾】

苗場山麓ジオパーク研究集録第5号にも歴史的遺構について掲載しています。なじもんにてお買い求めいただけます。 ☎025-765-5511



柱を立てたと思われる直径66cmの穴